

2023年3月期

第2四半期 決算説明会用資料

2022年11月24日

The logo for RHEON, featuring the word "RHEON" in a stylized, handwritten-style font with a registered trademark symbol (®) to the right.

レオン自動機株式会社

RHEON AUTOMATIC MACHINERY CO., LTD.

証券コード（6272）

- 1. 2022年度 上期連結決算概況**
- 2. 2022年度 通期連結業績予想**

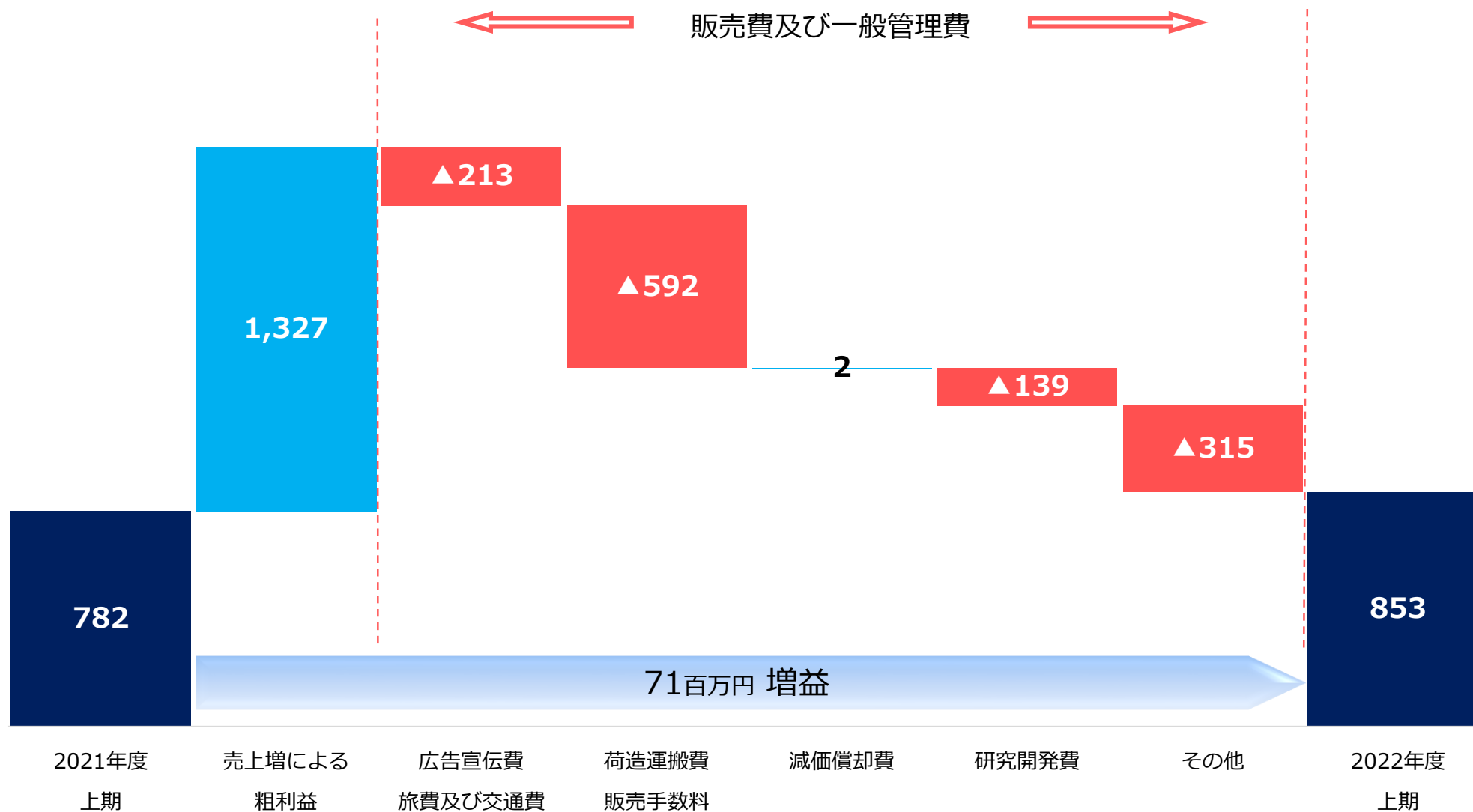
- 1. 2022年度 上期連結決算概況**
2. 2022年度 通期連結業績予想

◆ 連結計算書サマリー（上期）

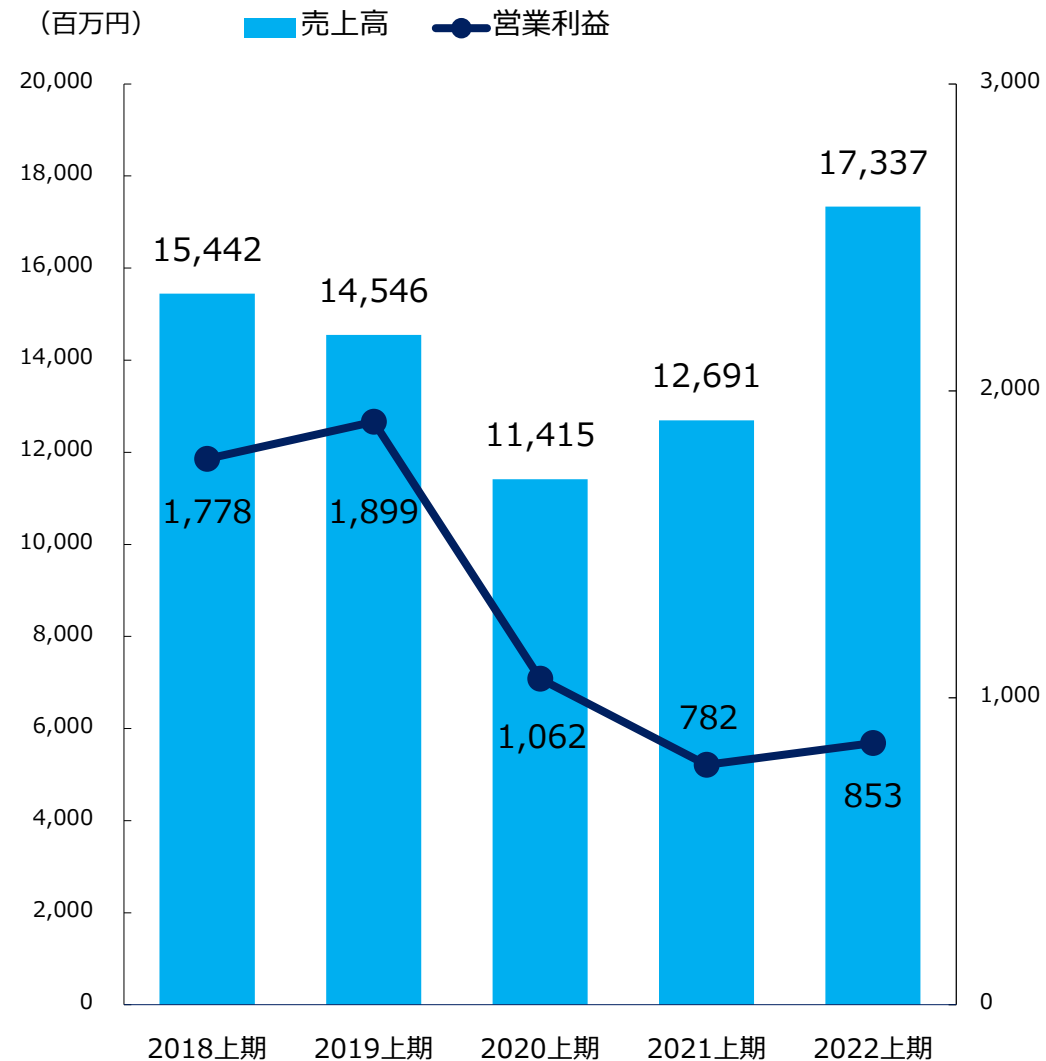
（百万円）	2021年度 上期実績	2022年度 上期計画 (2022年5月12日)	2022年度 上期実績	前年比
売上高	12,691	14,800	17,337	36.6 %
営業利益	782	870	853	9.1 %
経常利益	830	900	992	19.4 %
親会社株主に帰属する 四半期純利益	777	840	821	5.6 %
1株当たり 四半期純利益	29.02 円	31.34 円	30.63 円	—
中間配当	8.00 円	12.00 円	12.00 円	—
期中平均為替レート	USドル=109.80 円 ユーロ=130.90 円	USドル=120.00円 ユーロ=130.00円	USドル=133.97円 ユーロ=138.73円	—

◆ 営業利益増減（上期）

(百万円)

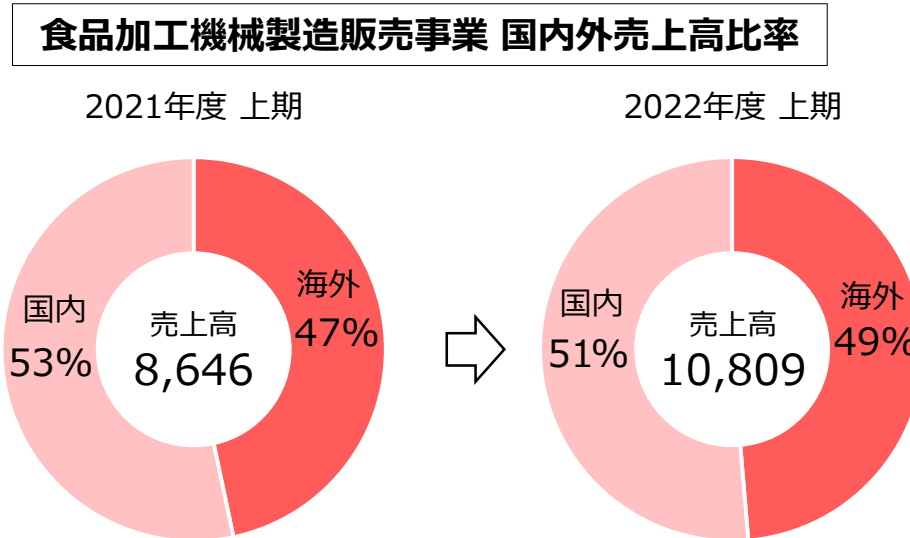
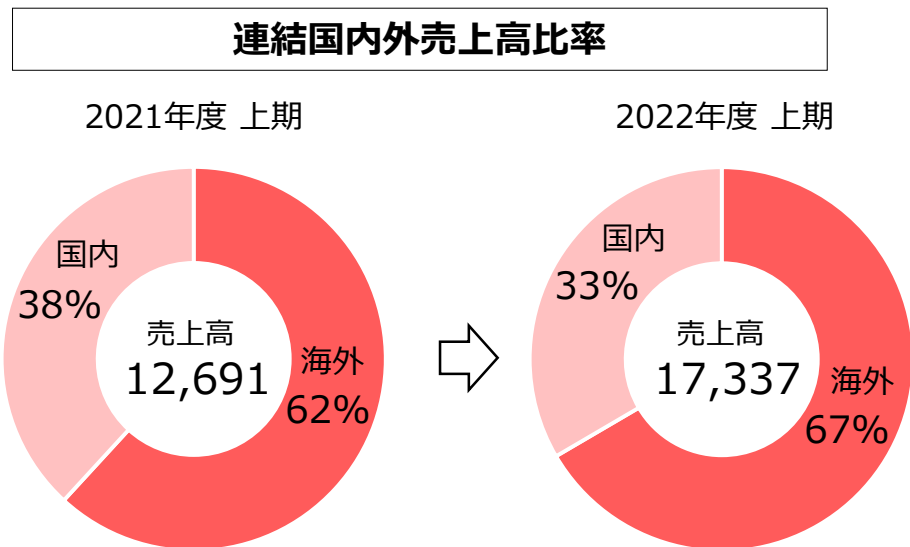


◆ 過去5年の業績推移（上期）



USドル	110.26 円	108.63 円	106.92 円	109.80 円	133.97 円
ユーロ	129.85 円	121.42 円	121.29 円	130.90 円	138.73 円

(百万円)



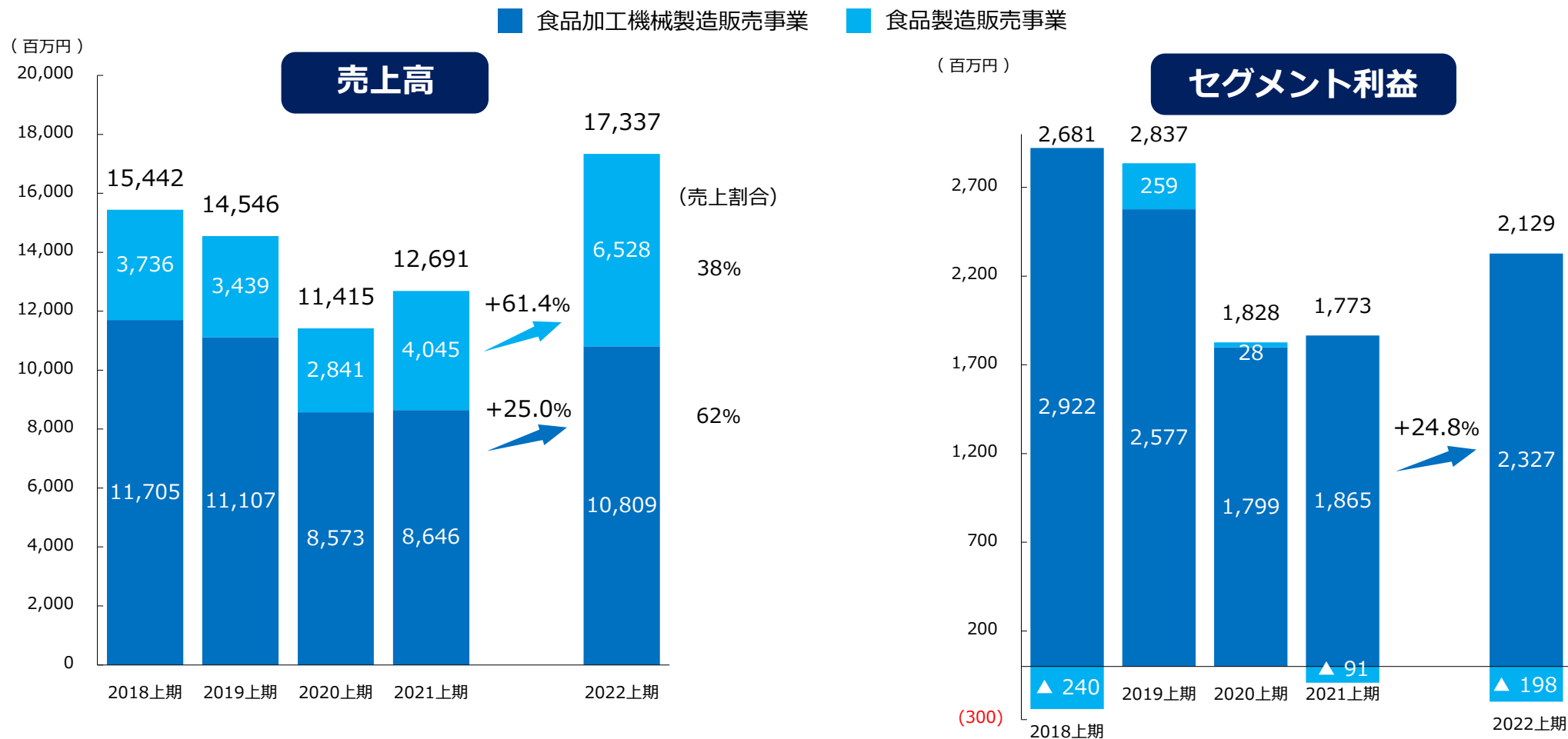
◆ 食品加工機械製造販売事業・食品製造販売事業 《 事業別売上高・セグメント利益 》 (上期)

食品加工機械製造販売事業

展示会や対面営業などの活動が再開され、売上高、セグメント利益ともに増加。

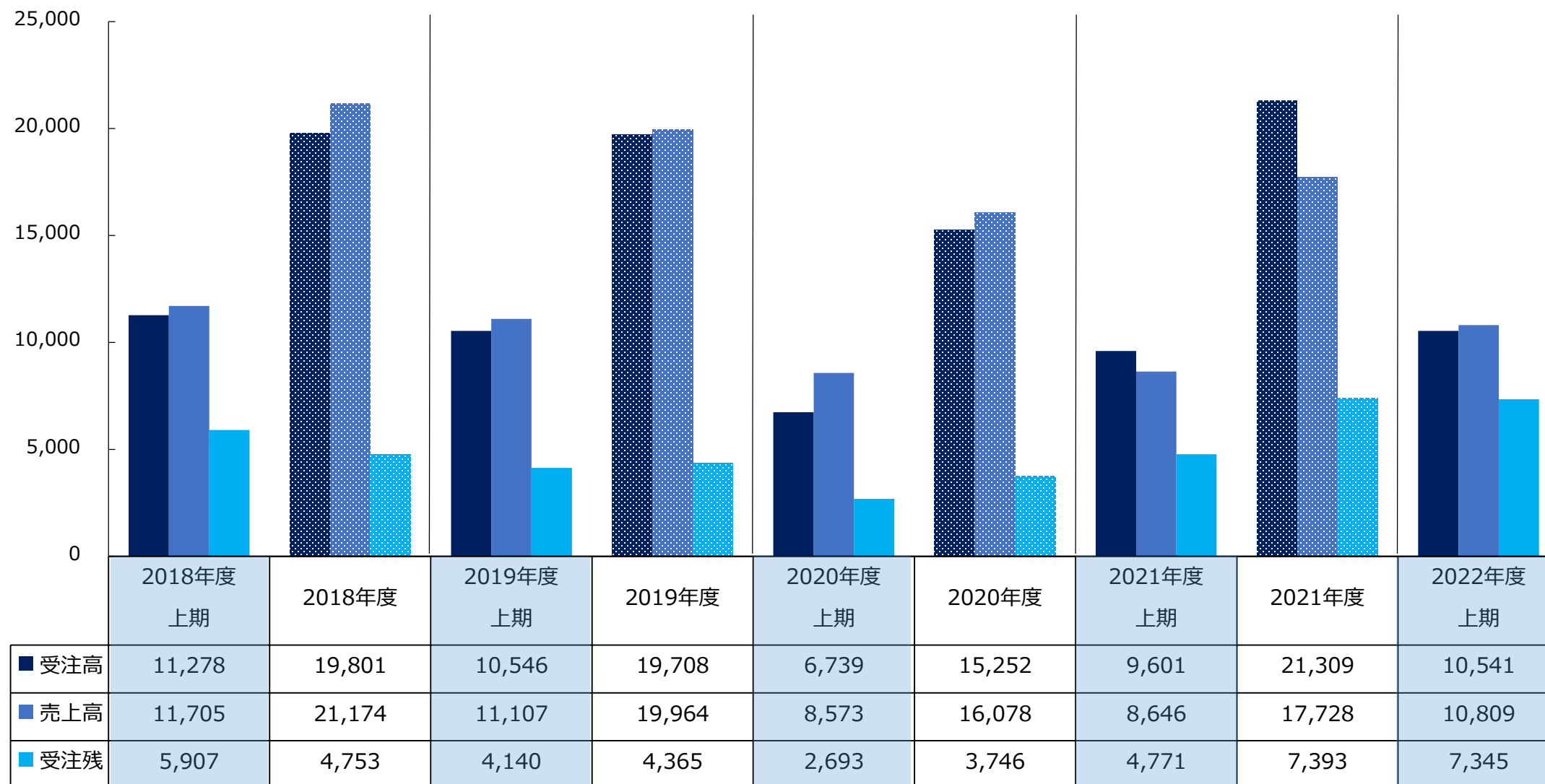
食品製造販売事業

米国において、売上は増加したものの急激なコスト高でセグメント利益はマイナス。



◆ 食品加工機械製造販売事業 受注高・売上高・受注残の推移

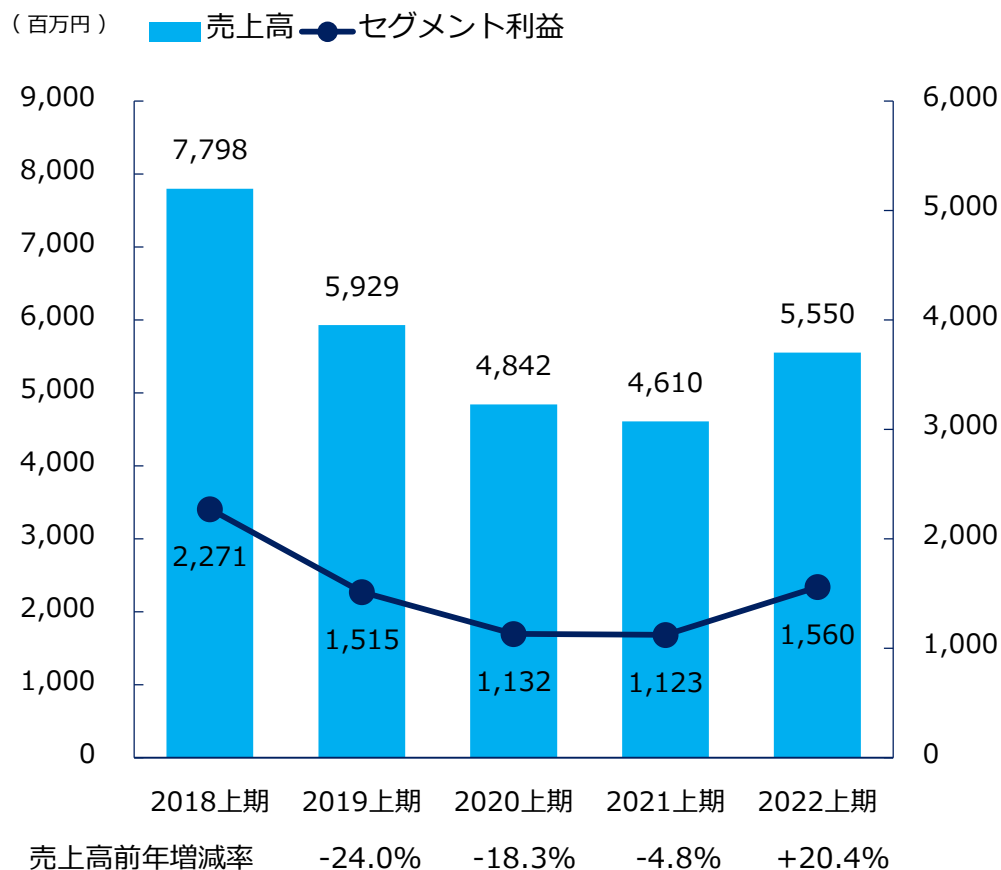
(百万円)



◆ 食品加工機械製造販売事業 日本 《過去5年（上期） 売上高・セグメント利益》

自動化ライン、包あん機等ともに案件が増え、増収増益。

売上高・セグメント利益



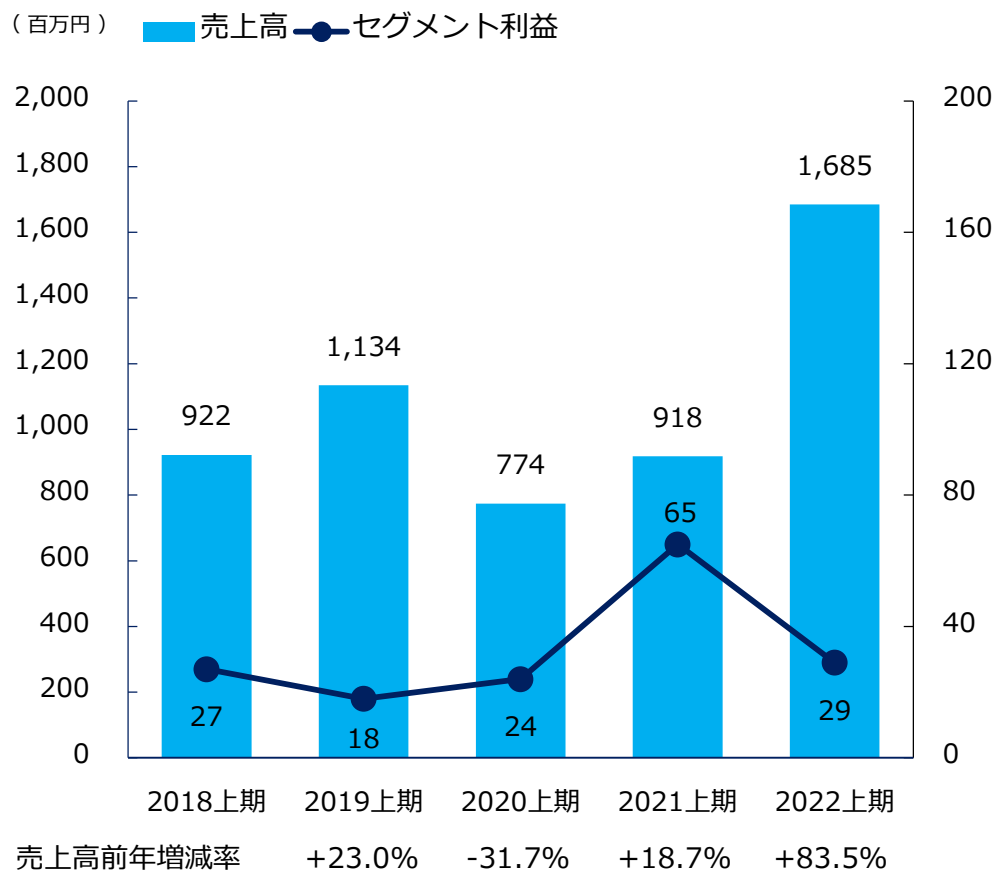
主な増減要因

- スーパーの内製化やコンビニの新製品に向けた積極的な投資により自動化ラインの販売が増加
- 包あん機の値上げ前駆け込み需要や補助金を利用した新規顧客が増加
- 包あん機などにおいては、和菓子卸および食肉・冷凍食品業界向けに販売が増加した

◆ 食品加工機械製造販売事業 北米・南米 《過去5年（上期） 売上高・セグメント利益》

各地の展示会や来客テスト誘致が再開されるなど、営業活動再開により売り上げが大幅に増加。

売上高・セグメント利益



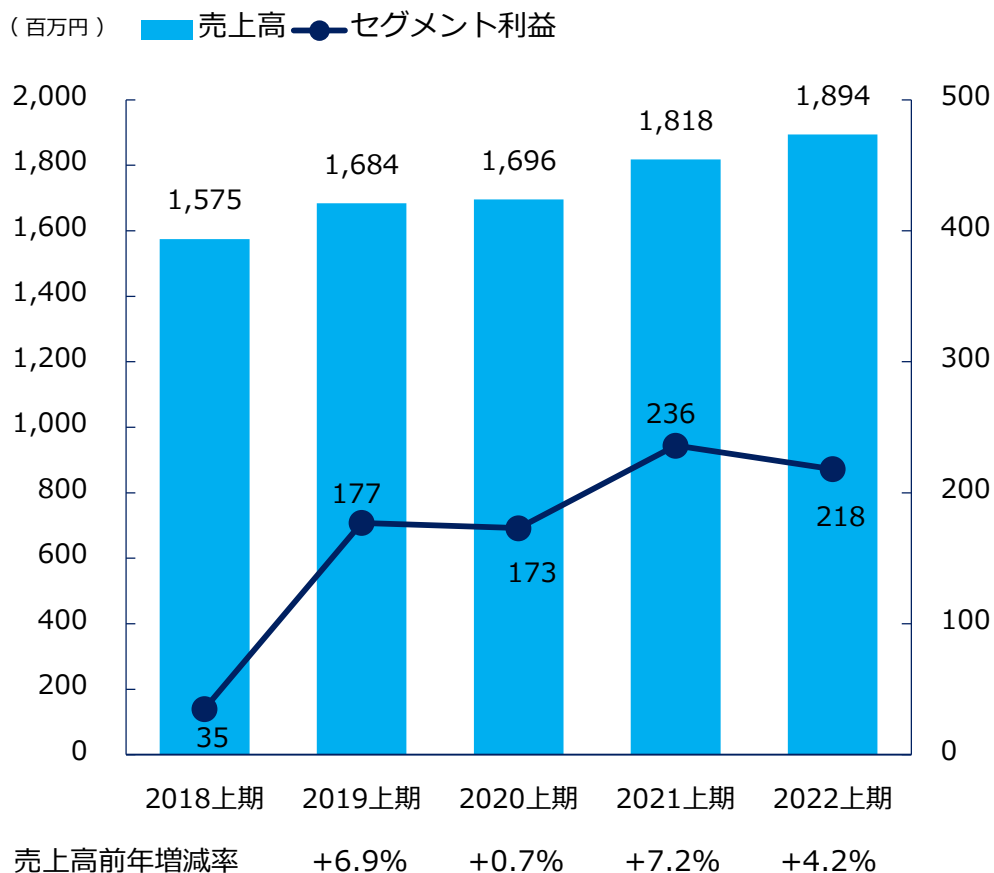
主な増減要因

- 生産体制の合理化需要の高まり及び円安の影響により売り上げが増加
- 自動化ラインはアルチザンブレッドラインなど大型製パンラインの機械売上が増加
- 包あん機に整列機など周辺機を加えた販売が前年に比べ大幅に増加
- 餅アイス市場もアメリカに浸透してきており、包あん機の安定した販売に貢献
- 大型ラインの売上増加による原価上昇や大型展示会などの販管費が増加した事により利益は減少

◆ 食品加工機械製造販売事業 ヨーロッパ 《過去5年（上期） 売上高・セグメント利益》

経済正常化により設備投資が進み、ベーカリー向け小型製パン機の機械売り上げが増加。

売上高・セグメント利益



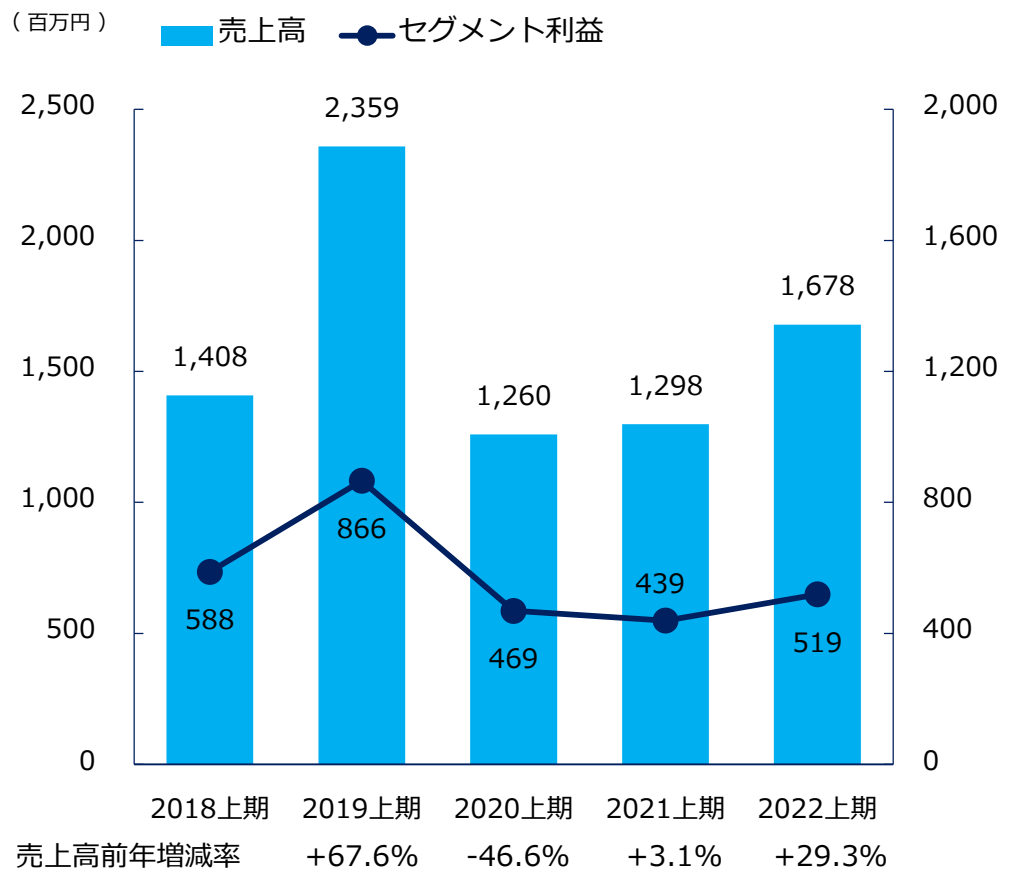
主な増減要因

- 材料メーカーとの共同セミナー開催や、積極的な製品（食品）提案により、食品成形機のリピート受注が増加
- ドイツ、フランス、イギリスなどヨーロッパ主要国への小型製パン機の販売が堅調
- 包あん機では、スーパーマーケット需要が堅調だが、エネルギー問題の影響を受けて、欧州中央圏で若干投資熱の低下が見られる
- ロシアによるウクライナ侵攻の長期化により、同国への機械販売再開は先行き不透明な状況

◆ 食品加工機械製造販売事業 アジア 《 過去5年（上期） 売上高・セグメント利益 》

中国の大型製パンラインおよび月餅生産用包あん機を中心に売り上げが増加。

売上高・セグメント利益



主な増減要因

- 中国におけるベーカリー市場の需要は、直営店からコンビニやスーパーマーケットへ移行しつつあり、大型製パンラインの販売が伸びた
- ベトナムでは、中華菓子生産用包あん機の大型受注に成功。中国では月餅市場への販売が順調
- 中国ではロックダウンの影響で部品の発送が制限され、メンテナンスの売り上げが減少

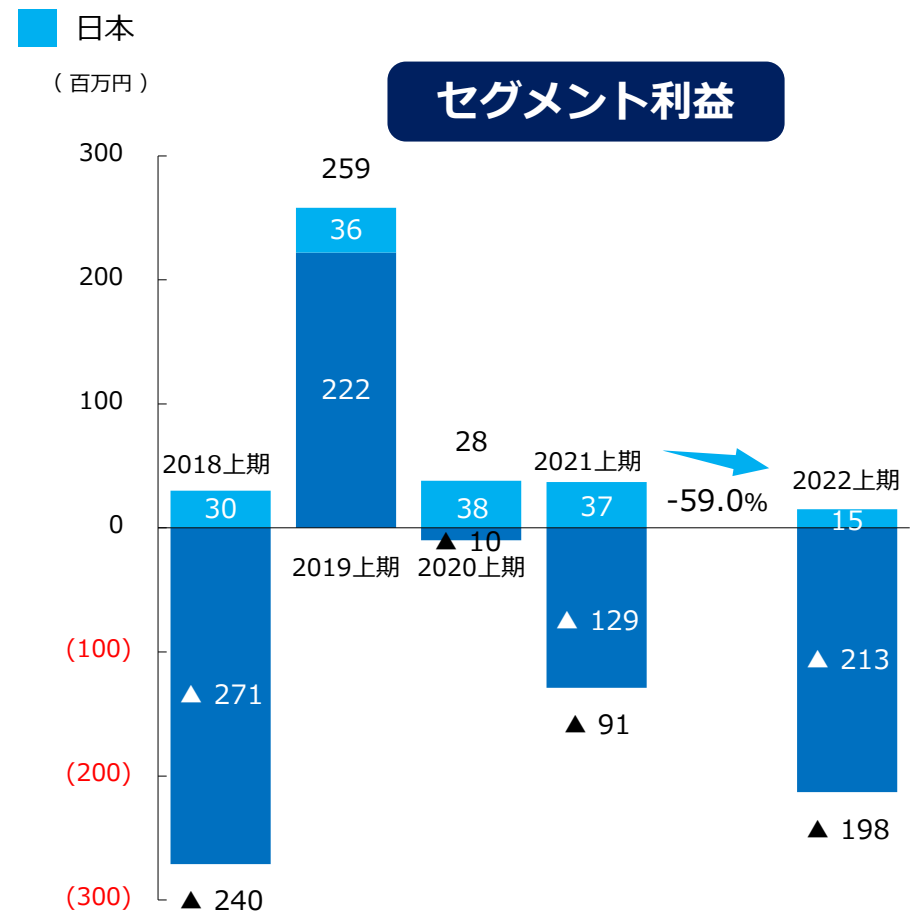
◆ 食品製造販売事業 《 地域別売上高・セグメント利益 》 (上期)

売上高

- 北米・南米 新型コロナワクチン接種が進み経済活動が回復、また販売価格の見直しで売上が増加。
- 日本 食料品値上げの影響で大手製パン会社へのパン種販売が横ばい、小売店向け販売が減少した。

セグメント利益

- 北米・南米 急激なインフレにより原材料費、包材費、運送費などのコスト上昇によりマイナス。
- 日本 展示会への参加や販売費および一般管理費の増加で利益減少。



◆ 連結貸借対照表サマリー（上期）

(百万円)	2021年度上期		2022年度上期			
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	増減率 (%)	主な増減要因
資産合計	36,244	100%	39,164	100%	8.1%	—
流動資産	19,180	52.9%	21,428	54.7%	11.7%	<ul style="list-style-type: none"> ● 受取手形及び売掛金の増加 ● 商品及び製品の増加 など
固定資産	17,064	47.1%	17,736	45.3%	3.9%	<ul style="list-style-type: none"> ● 円安による有形固定資産の増加 ● ソフトウェアの減価償却による無形固定資産の減少 など
負債合計	8,960	24.7%	8,815	22.5%	▲1.6%	—
流動負債	6,548	18.1%	7,000	17.9%	6.9%	<ul style="list-style-type: none"> ● 支払手形及び買掛金の増加 ● 前受金の増加 など
固定負債	2,412	6.7%	1,815	4.6%	▲24.7%	<ul style="list-style-type: none"> ● 長期借入金の減少 ● 繰延税金負債の減少
純資産合計	27,283	75.3%	30,348	77.5%	11.2%	<ul style="list-style-type: none"> ● 利益剰余金の増加 ● 為替換算調整勘定の増加
負債純資産合計	36,244	100%	39,164	100%	8.1%	—

◆ 連結キャッシュ・フローサマリー（上期）

(百万円)	2021年度上期	2022年度上期	主な増減要因
現金及び現金同等物の期首残高	7,484	10,000	—
営業活動によるCF	1,741	148	<ul style="list-style-type: none"> ● 税金等調整前四半期純利益 992 ● 減価償却費 577 ● 売上債権 ▲1,384 ● 法人税 ▲298
投資活動によるCF	▲347	▲472	<ul style="list-style-type: none"> ● 有形固定資産の取得 ▲371
財務活動によるCF	▲44	▲284	<ul style="list-style-type: none"> ● 短期借入れによる収入 120 ● 長期借入金の返済 ▲189
現金及び現金同等物の増減額	1,361	▲371	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,846	9,628	—

1. 2022年度 上期連結決算概況
- 2. 2022年度 通期連結業績予想**

◆ 2022年度 通期連結業績予想

経済は回復しており、増収・増益を見込むが、コロナ感染症やウクライナ問題もあり、先行きの不透明感が強い。

(百万円)	2021年度 実績	2022年度 予想 (2022年5月12日)	前年同期比	増減率 (%)
売上高	26,585	31,420	+4,835	18.2%
売上原価	15,783	18,280	+2,497	15.8%
販管費	9,701	10,600	+899	9.3%
営業利益	1,099	2,540	+1,441	131.0%
経常利益	1,468	2,550	+1,082	73.7%
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,486	2,190	+704	47.3%
期中平均為替レート	USドル=112.38 円 ユーロ=130.56 円	—	—	—
想定為替レート	—	USドル=120.00 円 ユーロ=130.00 円	—	—

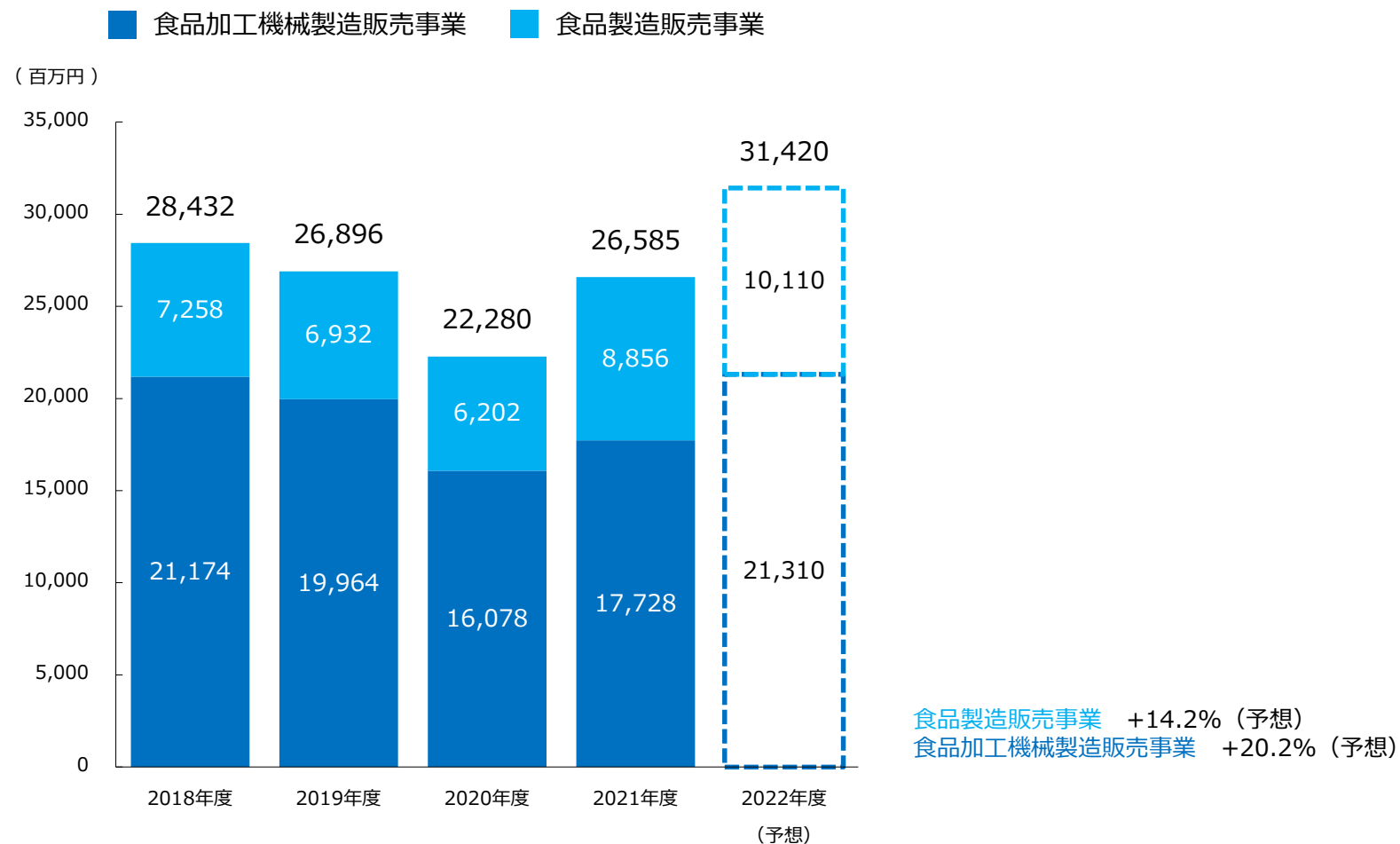
◆ 業績予想 食品加工機械製造販売事業・食品製造販売事業 《事業別売上高》

食品加工機械製造販売事業

社会経済活動が正常化し、売上げが増加すると予測。

食品製造販売事業

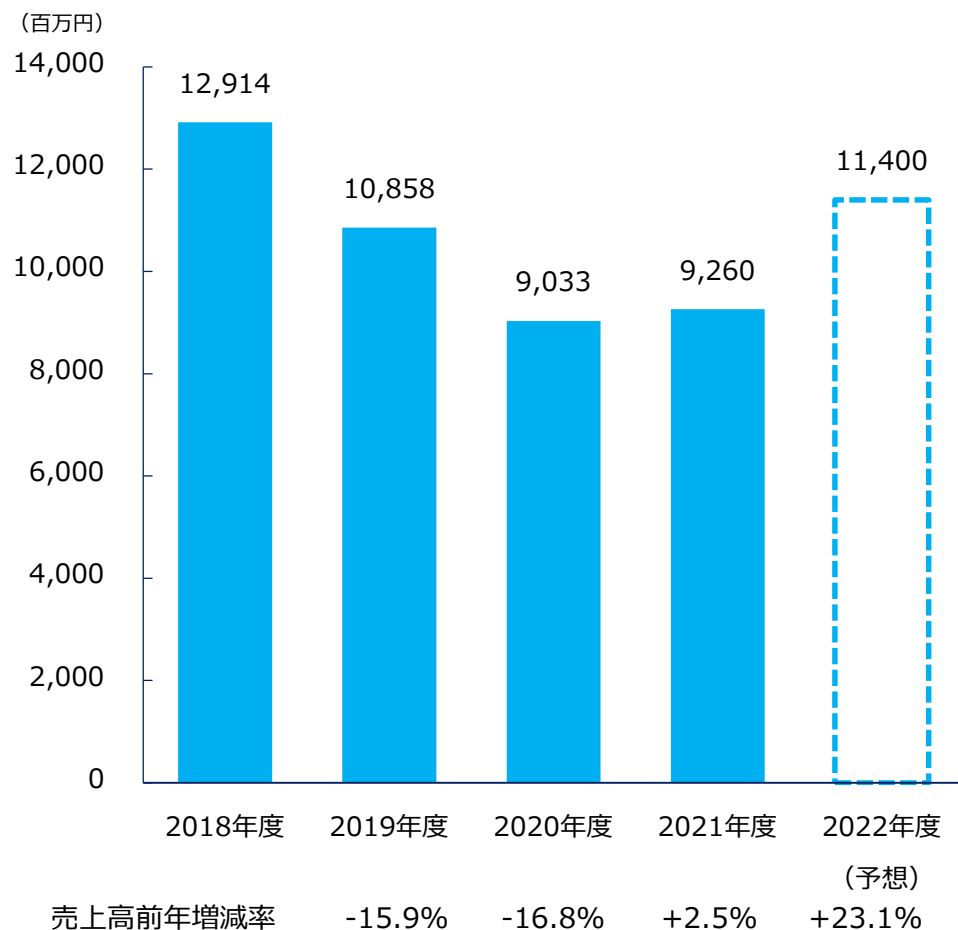
米国の需要拡大により、オレンジベーカーリーを主体に売上げ回復。



◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業 日本 《過去5年（通期） 売上高》

スーパー・コンビニ、食肉・冷凍食品市場向けで製パンラインおよび包あん機の販売増加。

売上高



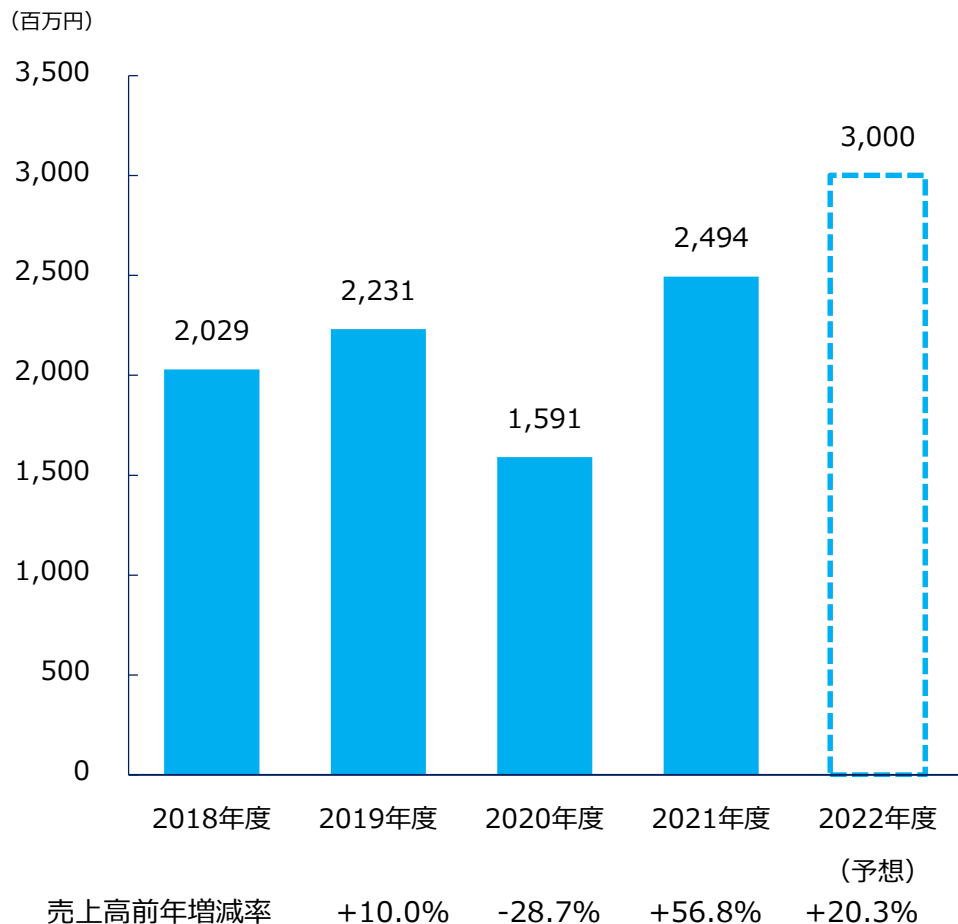
主な増減要因

- 製パンを中心としたスーパーの内製化やコンビニの新商品化
- 調理食品業界や菓子業界の生産合理化などによる設備投資が継続
- 国内においては、大きく売り上げが増加すると予測

◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業 北米・南米 《過去5年（通期） 売上高》

省人化に向けた投資が活発となり、自動化ラインおよび食品成形機の販売がともに増加と推測。

売上高



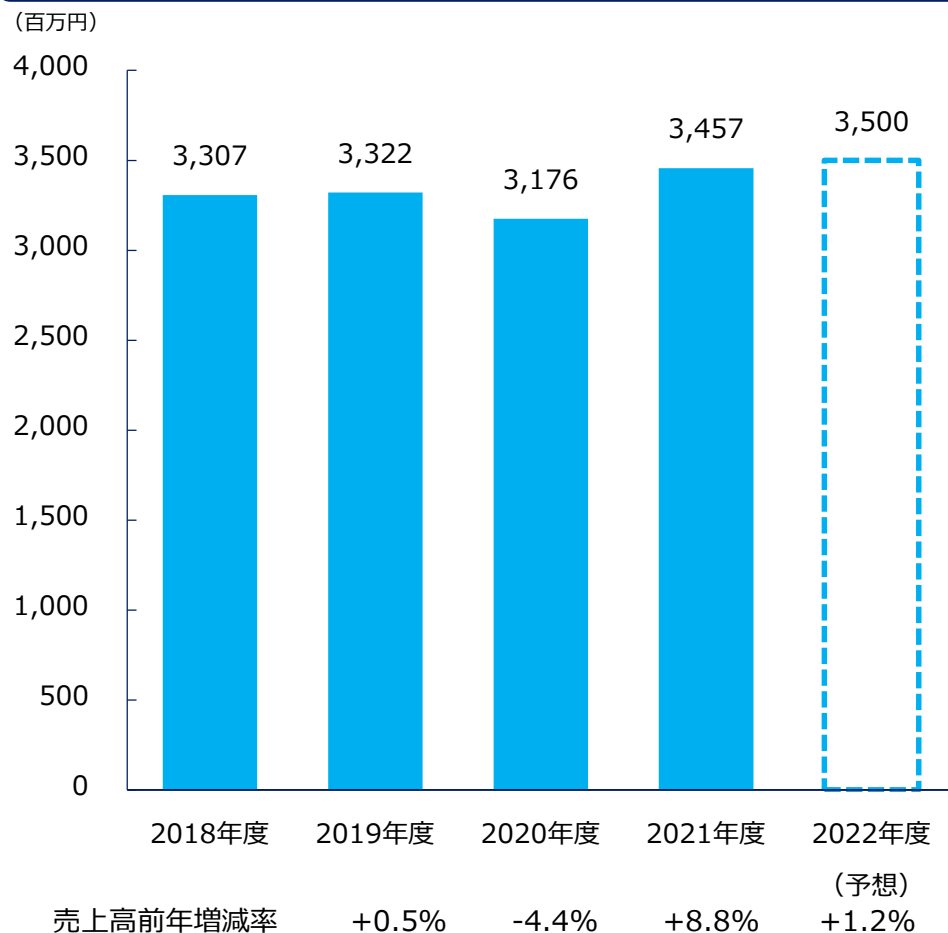
主な増減要因

- 労働力不足や生産コスト削減に向けた設備投資の機運が継続
- 自動化ラインでは、大手製パンベーカリーやアルチザンベーカリーを対象とした市場の活性化
- 包あん機の需要は、菓子その他、調理食品業界への進出により増加の見込み

◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業 ヨーロッパ《過去5年（通期） 売上高》

ヨーロッパ主要国への小型製パン機の販売は堅調を維持。東欧販売拡大の為に代理店販売力の強化

売上高



主な増減要因

- 人件費の高騰や消費者の衛生意識の高まりにより、自動化への要望が強まる
- 自動化ラインは、大型案件の販売を強化
- スーパー向けのクノーデルやミートボール等の調理食品やクッキーなどを生産する包あん機は安定した売り上げを維持
- 代理店との連携を強化

◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業 アジア 《過去5年（通期） 売上高》

本格的な対面営業活動の再開で、中国や韓国、台湾の販売好調を維持するとともに、インドやインドネシア、タイなど東南アジアでの販売回復を図る。

売上高



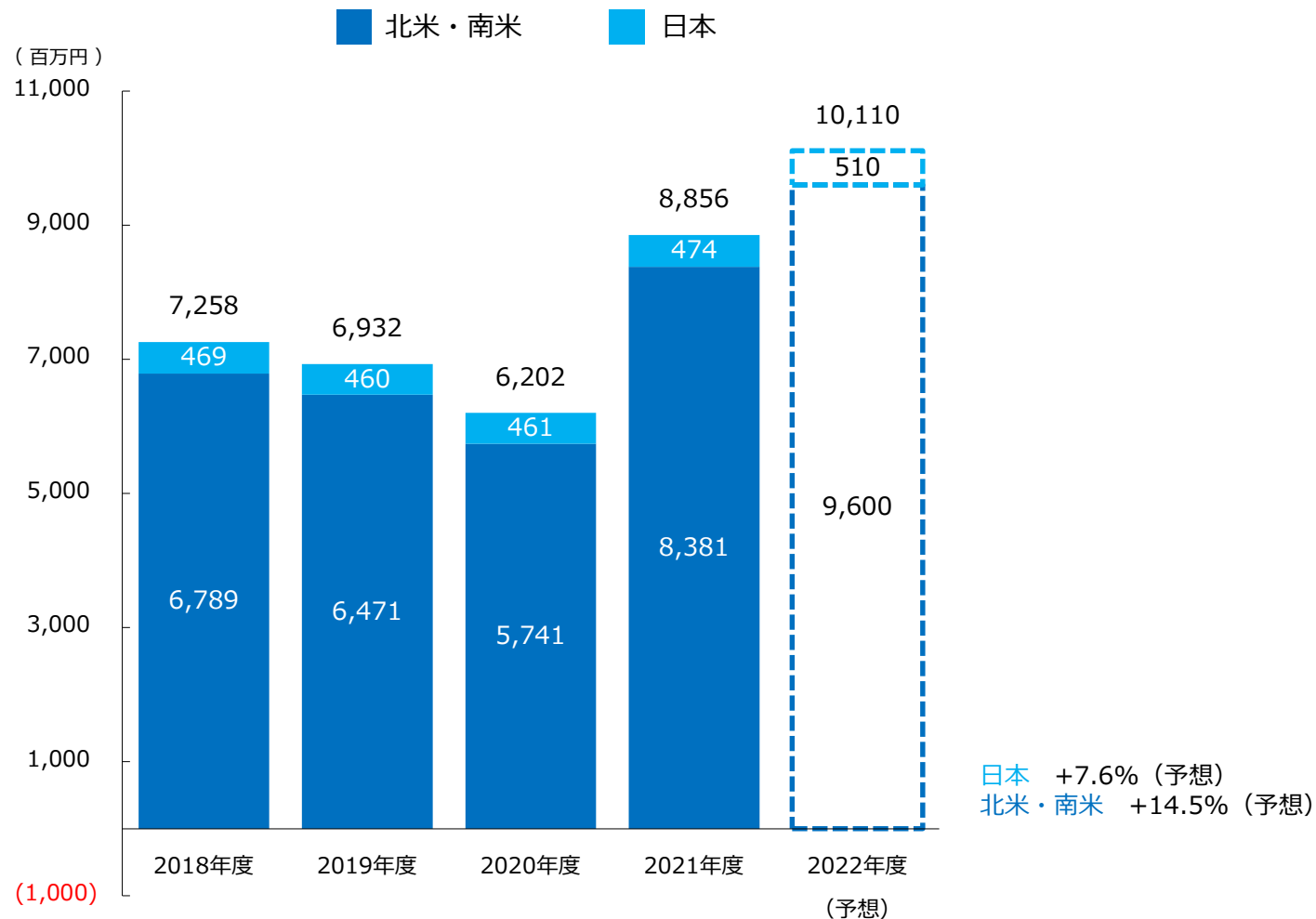
主な増減要因

- 中国においては、展示会のフォローアップ活動を重点的に行い、製パンライン、包あん機とも計画通りの販売を目指す
- インド・インドネシア・タイなど東南アジア市場の営業活動を強化するが、自動化ラインの販売は厳しい状況

◆ 事業別業績予想 食品製造販売事業 《過去5年（通期） 地域別売上高

売上高 ■北米・南米 ■日本

大型スーパーやレストラン向けの売上げが維持され利益改善。
 リテールベーカリーへの販売が厳しいが、大手製パン向け販売は微増と予測。

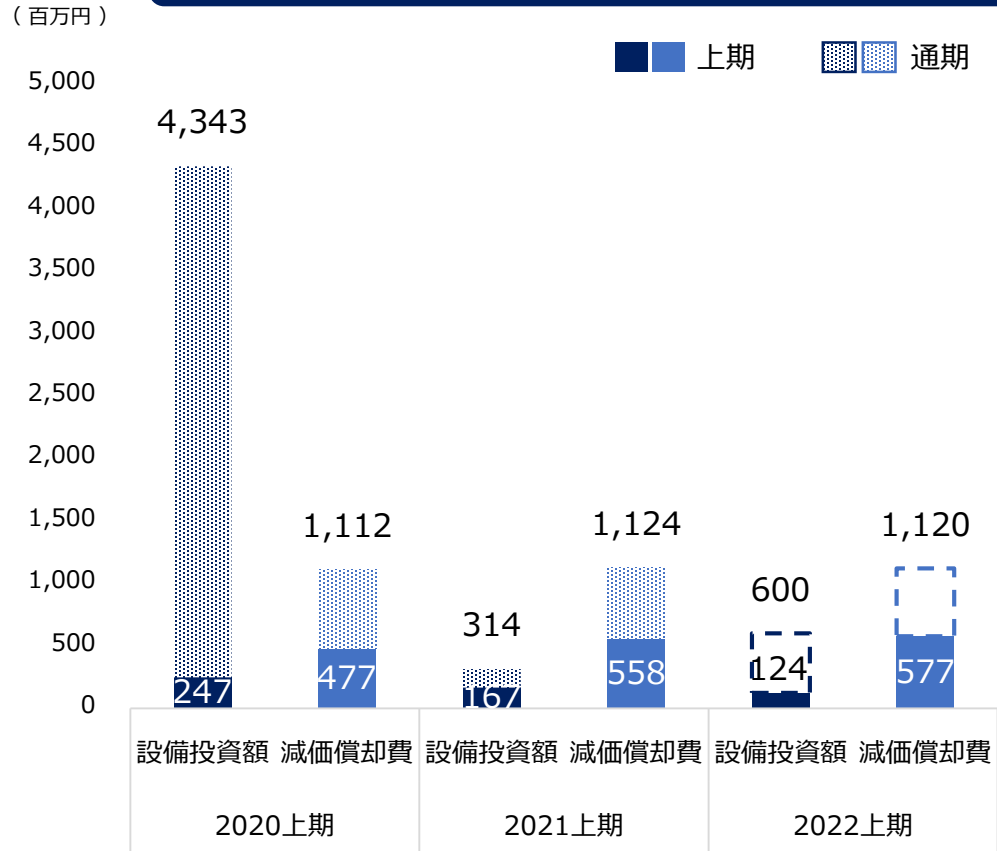


◆ 設備投資額・減価償却費・研究開発費

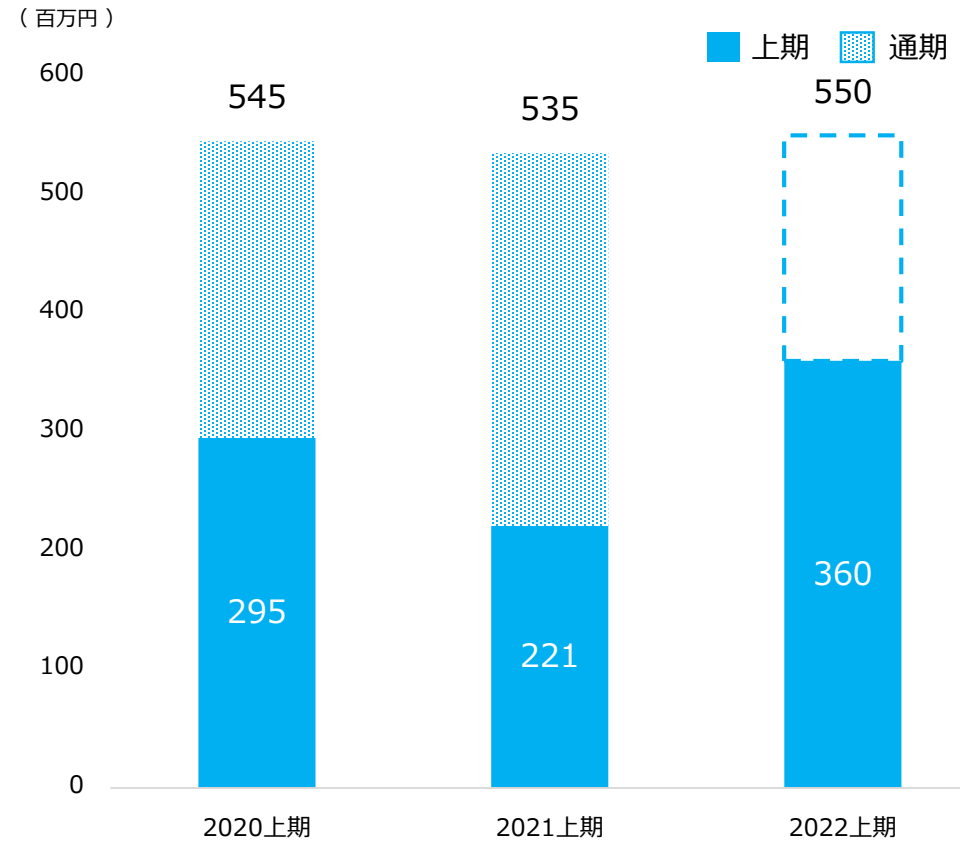
2022年度

上期設備投資：上河内工場の工作機械とオレンジベーカーリーの生産機械の導入

設備投資額・減価償却費

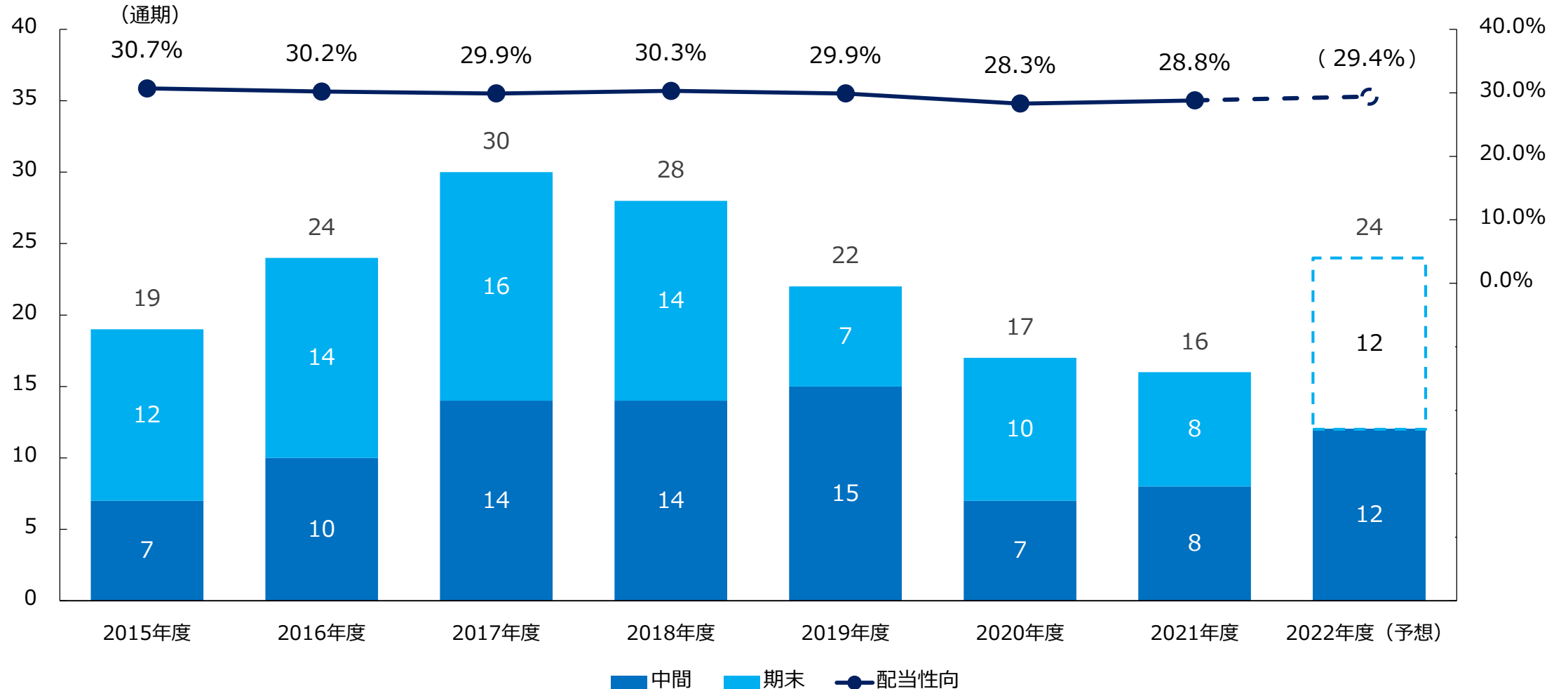


研究開発費



◆ 配当方針

2014年度に連結配当性向の目標を30%とし、業績等を総合的に勘案し継続的かつ安定的な配当を行うことを基本方針としております。



社 是

“ 存在理由のある企業たらん ”

- 自社製品を通じてお客様に満足を提供する
- 世界の食文化に貢献する

「存在理由のある企業たらん」は、
レオングループが創業以来持ち続けている社是です。
これまでも、これからも、存在理由のある企業であり続けることが
レオングループの大切にしていることです。





《 社名の由来 》

レオン自動機の「レオン」は、レオロジー（流動学）に由来します。レオロジーとは、粘性や弾性の流動を解明する科学であり、当社の創業者（現 名誉会長 林虎彦）が、レオロジーを応用し、世界初の包あん機を開発したことから名づけました。

【 免責事項 】

本資料の将来的予測に関する業績・事業計画などは資料作成時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、潜在的リスクや不確実性を含んでおります。そのため、実際の業績・財務状況は今後の経済動向・市場の変化など様々な要因により大きく異なる可能性があります。

添付資料

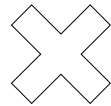
◆ レオングループの概要

会社名	レオン自動機株式会社 (RHEON AUTOMATIC MACHINERY CO., LTD.)
所在地	栃木県宇都宮市野沢町 2 番地 3
代表者	代表取締役社長 小林幹央
設立	1963年3月15日
事業内容	食品加工機械製造販売事業、食品製造販売事業
資本金	7,351百万円
決算期	3月31日
株式の上場	東証プライム上場
従業員数	2021年度 個別：675名 連結：1,095名
関連子会社	国内：2社 海外：3社
※ 国内シェア	包あん機 90%、自動化シートライン 90%以上
※ 総保有特許数	国内 138件、海外 352件 (2022年3月31日 現在)

ハード・ソフトを交えた販売活動が当社の強み

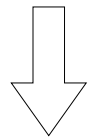
ハード
(確かな技術力)

- ◆ 自社独自技術の機械を開発する能力
- ◆ 自社製品の改良によるさらなる価値提供



ソフト
(サービス体制)

- ◆ 顧客要望を情報で実現するソフト、開発能力
- ◆ 自社製品で生産される食品の提案による価値提供
- ◆ お客様の生産現場をサポートするメンテナンス力



お客様と強固な関係を実現

◆ 食品加工機械製造販売事業

食品成形機

包あん機やその周辺機で構成された単体



CN700



セットパンナー



製パンライン等

製パンラインを主とした自動化ライン等



FEライン



VMシステム



VX222

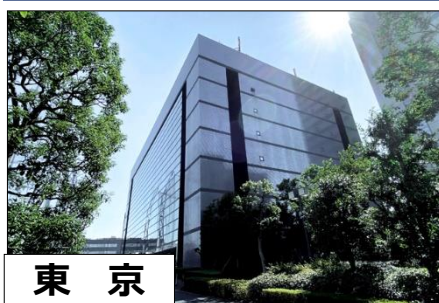


機械は国内で生産、販売は日本全国を網羅

栃木県



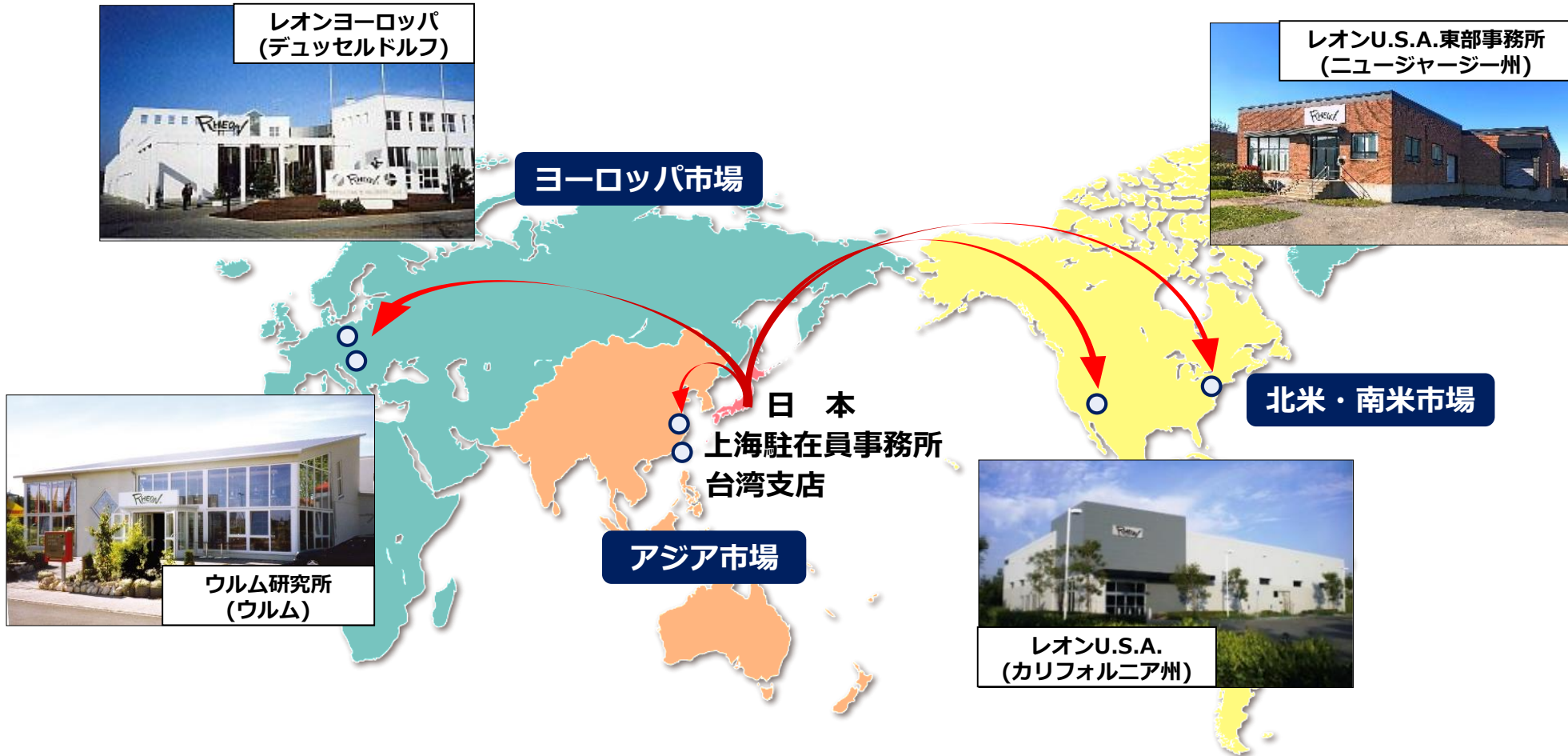
営業所



出張所



海外の販売子会社を通して（アジアは本社直販）
世界127の国と地域に機械を販売



◆ 食品製造販売事業 国内・海外拠点

オレンジベーカリー

カリフォルニア州

本社・第1工場



第2工場



第4工場



ノースカロライナ州

第3工場



- レオン機の実験工場として設立し、クロワッサンなど付加価値の高いパンを製造

- 主に成形冷凍のパンを全米のベーカリー、スーパー、レストラン等に販売

(有)ホシノ天然酵母パン種

神奈川県

本社・町田工場



秦野工場



- ホシノ天然酵母パン種を製造販売

◆ SDGsへの取り組みについて

創業の精神で培ったテクノロジーと実績



ビジョナリーカンパニーへの変革

- ◆多様なアイデアとレオロジーの応用による食品機械の開発・販売
- ◆多様な人材の活用
- ◆多様な食文化への対応と技術の展開
- ◆安定した経営基盤の維持

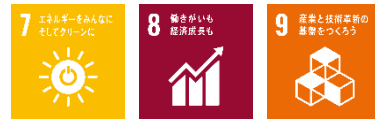
- ◆『存在理由のある企業たらん』を軸に食文化を支えるビジョナリーカンパニーへ
- ◆未来型食品工場へのチャレンジ（オレンジベーカリー工場 [米国子会社・製パン工場] 完全自動化）
- ◆気候変動に強い完全自動化食品工場へ
- ◆強靱で持続可能なバリューチェーン

事業を通じて



- ◆食の安心・安全・安定供給
- ◆食品ロスの削減 ◆食品製造業の安定産業化
- ◆イノベーションによる美味しさと食文化の伝承

ビジョナリーカンパニーを目指して



- ◆“美味しさは世界を一つにする”の実現
- ◆食品工場の完全自動化 ◆業種を超えた連携
- ◆省エネルギーと生産効率向上による安定した食と職の提供

社員教育&ESGを強化して



- ◆社員一人一人がSDGsの精神を理解し行動する環境整備
- ◆省エネや温暖化防止設備への切換 ◆Society5.0の実現

<SDGs達成に向けた重点的な取り組み> 「とちぎSDGs推進企業登録制度」

販売機種への高効率
モーター搭載
100%

販売機種のIot化
目標 50%

女性管理職の登用
+20%

全社での
CO2排出量削減
-10%

※ 詳細は当社ホームページ「SDGsへの取り組みに向けて」をご覧ください。

◆ レオン自動機のサステナビリティ推進

サステナビリティの基本方針

当社は、社是「存在理由ある企業たらん」のもと、当社独自の技術やサービスを通じて全世界の食文化の継承と発展に貢献することで社会課題や環境問題の解決に取り組めます。

また、「経営理念」や「行動指針」に基づき適正な企業統治を通して、社会から信頼される企業として持続的な企業価値向上を目指します。

そのうえで、「環境」「人材・組織」「技術」の3つを当社の重要課題として掲げ、レオンサステナビリティを推進してまいります。

